



敬老会で金婚を迎えられた方々を紹介（9月11日セパーム）

- | | |
|----------------------|------|
| 1. 8月臨時議会・9月定例議会の概要 | 2 |
| 2. 前年度決算審議 | 3~5 |
| 3. 一般質問 こんなことを聞きました | 6~10 |
| 4. 議会レポート | 11 |
| 5. 議員と語る会(11・12月)の案内 | 12 |



まなびピアで

十和田湖地区への 光通信ケーブル設置 工事を議決

8月9日開催された、臨時議会では、十和田湖地区への光通信ケーブルを設置する工事の請負契約締結が、上程され全会一致で可決されました。十和田湖地区は、秋田県側からのテレビ放送の難視聴地域であることから、共同受信施設を設置し、地元の方々が管理していました。

しかし、平成5年度に設置した施設は、老朽化が著しく今回この光ケーブルにテレビケーブルを併設することにより、難視聴は解消されるものと期待されています。

さらに、外国人を含む観光客の誘客には、WiFiの環境整備が不可欠なことから、今回の工事を実施することとなりました。

議案の二つ目としては、一般会計補正予算（第3号）が議題となりました。補正の内容は、法人町民税の還付と町立七滝保育所の厨房機器を更

新するとの内容でした。

法人町民税は、企業の平成27年度確定申告により還付が発生したものであり、七滝保育所の厨房機器は、老朽化によるもので、すでに交換部品も製造されていないことから新しいものにするとのことでした。この議案についても全会一致で可決されました。

平成28年度小坂町十和田湖地区情報通信基盤整備工事位置図



平成28年第6回小坂町議会定例会は、9月5日から16日までの12日間の会期で開催されました。
9月定例会では、議長と議員監査委員を除く10議員による決算特別委員会を設置。平成27年度一般会計と各特別会計等の決算を審議し認定したほか、平成28年度補正予算、公告式条例と手数料条例の一部改正などを審議しました。

9月 定例議会

「旧七滝小学校改修」 基本設計委託補正予算可決 高齢者居住施設と 公衆浴場併設の考え

・旧七滝小学校改修基本設計	171万円
・保育所業務効率化推進	100万円
・ひょう害農業復旧、再開支援	70万2千円
・町道等除排雪	1億828万6千円
・定住促進住宅予定地外構工事	1,531万2千円
・マイククリーン便座洋式改修	45万2千円

9月定例会では平成27年度の決算について、決算特別委員会を設置して審議し、特記事項（5ページ）を付して認定しました。

また、条例の一部改正2件、一般会計などの補正予算4件をそれぞれ原案のとおり可決しました。

さらに報告2件のほか、人事案件7件に賛成や同意をしました。

補正予算では、次のような質疑がありました。

問 にぎわい創出事業が平成28年度最終年度となるが、常任委員会だけでなく全協でも説明してほしい。

答 地権者と用地交渉中ですが、早い時期に全協で説明します。

問 旧小坂鉄道の線路の枕木が老朽化しており、保線をしつかりやらないと危険ではないか。

答 1号トンネルまでの間で、数カ所損傷している部分があります。緊急処置は執っていますが、今後もしっかり点検し、対応したいと思っています。

平成27年度の決算審査は、9月定例議会中に決算特別委員会を設置し、一般会計と10の特別会計、それに水道事業会計を審議しました。

全ての会計を合わせた歳入合計は70億8,456万円。歳出の合計が69億161万円で差し引き1億8,295万円の黒字決算となりました。前年度に比べると歳入で4億6,319万円、歳出で4億5,298万円のいずれも増額となっています。

決算特別委員会では、各委員から、それぞれの事業効果、予算措置の仕方、今後に向けての事業の取り組みを質すなど、活発な討論が行われました。(5ページに特記事項を掲載しています)

●総務費

定住促進用の借り上げ住宅の利用状況は?

問 マイナンバーの発行件数は、どのくらいになっているのか。

答 3月末で307件交付、現時点では800件位になっています。

問 定住促進事業について、

空き家の借り上げ2棟、改修の2棟の場所はどこか。

答 空き家を借りた場所は、中小坂地内の2棟です。

問 居住体験している人はいるのか。

答 現在1名の方が居住しています。

問 自治会館の補修について、町としてどう手を差し伸べてくれるのか。

答 町で行うもの、自治会で行うものを判断して対応します。大規模な修繕が必要な場合は協議したいと考えています。

問 旧砂子沢ダム事務所および西側の空き地の活用について町の考えは。

答 旧砂子沢ダム事務所は農産加工所として、また西側空き地についてはスポーツ用地として、必要に応じて活用を考えたと思っています。

●民生費

全国的に問題となっている虐待は町でもあるのか

問 虐待に関する通報は、介護に関係したものなのか。

答 数件の通報がありました。が、介護に限らず、DVや子どもに関するものもありました。町では保健センター、包括支援センターが、調査に向き対応しました。

問 虐待への今後の対応は。

答 警察と協力し、また自治会と連携を強化し、しっかりと対応したいと考えています。

●衛生費

問 歯科診療所の決算で、多額な不用額が発生した原因は。

答 レントゲン機器の購入と内部改修工事に伴う入札によ

る差額と診療所の運営が若干上向いたことで、一般会計からの繰出金が余ったものです。

●農林水産業費

ワイナリーの建設は?

問 淡水管理の協議会はどこなのか。

答 鹿角市と小坂町が共同で協議会を作っています。

問 小坂町のぶどうの評価は。かなり周知されていると思っ

ています。また、地元産ワインをもっと普及するよう努力したいと思っ

ています。**問** 今後、体験農園の方向性について、どのように考えているか。

答 「あけほの」を活用した都市農村交流の体験メニューの一つとして、活用できないか検討しているところ

です。**問** ワイナリーの建設について平成28年度は採択される見込みはあるのか。

答 国の補助事業の平成28年度補正に要望したいと思っ

ています。**問** 町として、農林水産業の進行のあり方について、どの

ように考えているか。

答 当町の農業の体系は、米中心ですが、今後は複合経営を支援したいと思っ

ており、新しく農業にチャレンジする人を応援したいと思っ



活用方法が注目される体験農園

●商工費

観光大使の人数は?

問 レールパークを宣伝するにあたり、観光大使を芸能人

など宣伝効果のある人に頼むことは考えられないか。

答 インパクトのある宣伝をするには、効率的だと思っ

ています。今後検討したいと思っ

ています。**問** ジャイカカの研修生を通じて、町の観光発展に結びつけられないか。

答 今まで来町したジャイカカの研修生たちとのつながりを持っていき



改修が行われた借り上げ住宅

●土木費

河川構造物の点検は

問 8月の台風では、岩手県、北海道で甚大な被害が発生した。特に岩手では、老人施設が洪水により被災し、死者も発生した。小坂川も重兵衛から細越にかけて堤防が老朽化している。県と現地を確認し、お知らせいただきたい。

答 今では、どこでも1時間に100ミリを超える雨が降るなど想定外の事態が予想されます。町としてもハザードマップ等により、事前に点検しなければならぬと思っています。

●教育費

地産地消を積極的に

問 学校給食への地場産品の使用率は、若干上昇しているが、全県的にはどの位の順位か。
答 順位は定かではありませんが、全般的に後継者不足、高齢化により下がる傾向にあります。

問 農業振興、安心安全な食

の提供からも施策として、地産地消条例の制定を考慮してはどうか。

答 子どもたちには、地場産品を食べさせたいと考えており、その方針は今後も継続したいと思います。提案も含め使用量を増やしていきたいと考えています。

問 スクールカウンセラーの相談内容では、いじめがゼロとなっているが、不登校の中にいじめの実態があるのではないか。

答 アンケート調査を行い、必要があれば学校内で検討し、対策を講じる体制となっています。

問 みんなの運動公園の駐車場が未舗装となっている。簡易でも良いので舗装は出来ないか。

答 まだまだ整備しなければならぬところがありますので、年次計画で取り組みたいと思います。

●一般会計総括

レールパーク事業の

運営は？

問 レールパーク事業でマイ

ナス決算になっていくが、自身が心配。今後、この事業に對してどのように継続して盛り上げていくのか。

答 できるだけ早く黒字にし、この事業によって町の活性化を図りたい。レールパークが出来てから、二年であり、まだまだ宣伝不足。あけぼのに泊まっていた大きながら、これから集客を多くして活性化していかなければならないと思っています。

問 レールパークのことを多くの町民が心配している。小坂にあった町づくりも必要だが、背伸びをせず小坂町のよさを生かした取り組みをし



▶盛況だった「鉄道まつり」

ていけたらよいかと思う。今後、一般財源を出していくようであれば修正をさせていただきたい。

答 今年度予定していた事業を行った後に、ソフト面で力を入れ、あまりお金のからさないように考慮しながら事業を進めていきたい。

問 十和田湖では外国人観光客の素泊まりが以外に好評であり、寝台特急あけぼの号についてもそのような取り組みをしてはどうか。また、外国人観光客のPR活動を積極的

に進める必要がある。売り上げに對して賃金が高いのではないか。経費を削減するなどして考慮しながら誘客を勧めてはどうか。

答 外国人観光客を迎え入れるために、色々な情報を取り入れ、また賃金等の問題も含めながら、誘客に向けて取り組んでいきたいと思っています。

問 一般会計の計上の経費の不用額が大きい。負担金・補助金の不用額が特に大きかった。計上の段階で精査をしてほしい。事業系の不用額

区分	議案名	賛成	反対	結果
補正予算	一般会計補正予算(第4号)	11	0	賛成
補正予算	国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	11	0	賛成
補正予算	介護保険特別会計補正予算(第1号)	11	0	賛成
補正予算	菅原やエ奨学資金特別会計補正予算(第1号)	11	0	賛成
補正予算	小坂町公告式条例の一部を改正する条例(第1号)	11	0	賛成
補正予算	小坂町公告式条例の一部を改正する条例(第2号)	11	0	賛成
補正予算	小坂町手数料条例の一部を改正する条例制定	11	0	賛成
認定	平成27年度小坂町歳入歳出決算、特別会計歳入歳出決算及び水道事業会計決算の認定	11	0	認定
認定	情報公開審査会の委員選任(一人目)(簡易採決)	11	0	賛成
認定	情報公開審査会の委員選任(二人目)(簡易採決)	11	0	賛成
認定	情報公開審査会の委員選任(三人目)(簡易採決)	11	0	賛成
認定	情報公開審査会の委員選任(四人目)(簡易採決)	11	0	賛成
認定	情報公開審査会の委員選任(五人目)(簡易採決)	11	0	賛成
認定	教育委員会の委員の選任(一人目)(簡易採決)	11	0	賛成
認定	教育委員会の委員の選任(二人目)(簡易採決)	11	0	賛成
報告	平成27年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告	11	0	報告

平成27年度
小坂町一般会計決算

決算特別委員会報告書
特記事項

1. 不用額の総額が1億円を超えている。予算策定の段階で精査すべきであるとともに適正な時期に補正により調整を図り、決算において多額の不用額を出さないよう努めてほしい。
2. 毎年、各国から来町されるJICA研修員は、将来その国を担うエリートである。彼らとのつながりを持つことで、さらなるインパクト効果も期待できる。関係機関との協議を図りたい。
3. 地場産品を積極的に学校給食に取り入れるためにも早期に条例の制定を進めていただきたい。
4. 台風や強風等により、空き家からのトタン等の飛散を心配する声が町民の中に多い。個人財産であるものの危険防止の措置を講じられたい。
5. レールパークは多くのマスコミに取り上げられ、インパクト効果はあったと思うが、今後は運営にあたり一般会計からの持ち出しが憂慮されるので、さらなる経営努力をしていただきたい。

も相当あり、会計処理上の怠慢ではないか。
答 来年度はそういった不用額が出ないように精査し、一層努力していきたいと考えています。
問 レールパーク事業を動かしているのは、少なからず鉄道保存会のボランティアによって成り立っていると感じていいる。協力がなければ、人件費を含め、今以上の予算がかかると思うが、町としてどう考えているか。
答 保存会に大きな力をいただいて運営をしていますので、今後も町として協力しながら保存会を大事にしていきたいと思っています。

国民健康保険会計

健康診断の推進の
取り組みは

問 町の健康診断で各種検査を進めるうえで今のままでいいののか。
答 特定検診、がん検診の受診率が低い水準です。健診率向上のため、もうひと工夫していきたいと考えており、地区の健康推進委員の方々にも協力をお願いしたいと思っています。
問 歳入に関して不能欠損にならないために、収入未済額になってから不能欠損になる間の取り組みは。

答 それ相応の調査をし対応して基準に合致する対応をしています。

下水道事業

下水道の接続推進の
取り組みは

問 新たに加入下水道接続可能区域で接続を促すのにどういった取り組みをしているか。
答 平成28年度、29年度で公共下水道地域が一段落し、平成32年にはすべての下水道建設工事が終了予定となっています。今後も引き続き普及継続には、力を入れたいと思います。

人事案件承認

〔教育委員〕



栗田 博美氏
(再任)

〔情報公開審査会委員〕



成田 一志氏
(再任)



川田重三郎氏
(再任)



伊藤 智子氏
(再任)



青島 達也氏
(再任)



花田 洋二氏
(再任)



葛西 壽氏
(再任)

一般質問

9月定例議会

こんなことを聞きました

= 4議員が登壇 =

1 1番 鹿兒島 巖 議員

1. 旧校舎の利活用について
2. 2期目の任期満了を半年後にひかえて

2 6番 宮 信 議員

1. 十和田湖活性化のために
2. 十和田湖の子どもたちの通学問題

3 8番 成田 直人 議員

1. 2025年問題について
2. 除雪問題について

4 3番 本田 佳子 議員

1. バス停の待合室建屋等の設置について
2. 再生可能エネルギーについて
3. 空き家対策について

旧校舎の利活用、校舎別に方針の明確化を

町長 個別に現状活用・解体・新たな活用など検討したい



鹿兒島 巖議員



耐震強度に課題がある旧川上小学校



雨漏りなど傷みが進む旧十和田小中学校

問 川上小は平成14年、十和田小中は平成23年、七滝小は平成25年に廃校となったが、いずれの校舎も抜本的な利活用が図れていない。

① それぞれの現状と利活用対策はどのようなになっているか、また年間の維持管理に要する費用額はどうか。

② 校舎によっては耐震問題がある。利活用を可能にするためには多額の費用が不可欠であり、むしろ利活用を図るより現存の旧校舎を解体し、必要な施設は別途対策とする

より有効な活用法と考えるかどうか。

③ 旧七滝小は本年度中に地域住民に具体案を示したいとしてきたが取り組みが遅れている。今年度中に利活用計画を決定し、来年度着手とすべきと考えるがどうか。

答 川上小は1階を公民館とし、2階は発掘された遺跡などの保管場所としています。年間の維持費は半年で約70万円ですが、昨年度は他に屋根改装で100万円かかりました。

十和田小中は十和田分館としておりますが、雨漏りなどによる傷みが激しく充分な利活用はされていません。維持費は約270万円です。

七滝小学校は体育館・校庭は地域の行事で利用されていますが、校舎の利活用はされていない状況です。維持費は約107万円です。

今後については、川上小は現行のままと考えています



利活用の基本設計に入る旧七滝小学校

が、耐震補強がなされていないため、改修が必要で

十和田小中は文科省のホームページで利活用の募集を行いました。応募はありませんでした。また地域住民の

方々でも活用の検討がされましたが条件が合わず決定には至っていません。

傷みの激しい校舎は解体し、体育館は改修を行い活用したいと考えています。

七滝小は今議会に基本設計調査費を計上しましたが、2階に高齢者の単身者向け住宅。1階に居住者用の浴場を整備し、「つつじ平公衆浴場」に代わる施設とします。

1階の教室は、花輪ふくし会へ貸し付ける協議を進めています。なおランチルームは地域住民の方々の「つどいの場」での活用を考えています。

任期満了まで半年、掲げた政策の達成状況は

町長 蒔いた種に花を咲かせるために 来春の町長選に臨みたい

問 任期満了まで半年となったが、掲げた政策の達成状況、町政運営などどうとらえているか。未達成の課題、在任中に新たな課題が生じたとすれば、それらにはどう取り組みようと考えているか。

答 この間明治百年通りにぎわい創出の拠点となる「小坂鉄道レールパークオープン」

「ブルートレインあけぼの車両購入と利活用」「役場庁舎の移転」「若者定住促進住宅建設」「福祉・介護の新規施策の実施や拡充」などに取り組みました。

これまでに蒔いた種に花を咲かせるためにも、来春の町長選に臨みたいと考えています。

〔十和田湖活性化のために〕

①インバウンドについて

町長 広域連携により興味満足度を高めていきたい



宮 信議員

問 東日本大震災から早5年。いまだ、十和田湖地域の観光客の回復は見られていない。そうした中、国は十和田八幡平国立公園など8箇所を外国人観光客呼び込む「国立公園満喫プロジェクト」のモデル事業地に選定した。これについて、町はどのような方針を持っているのか。

答 8月22日から26日にかけて、秋田県知事を団長とする台湾へのトップセールスを行ってきました。台湾は有望な誘客ターゲットであり、機会ある毎に積極的に情報発信を行っていきます。

「国立公園満喫プロジェクト

〔十和田湖の子どもの通学問題〕

青森県側の児童生徒の受け入れ(委託児童)について

町長 相談があった場合には十和田市と協議し検討したい

ト」は、国が2020年までに世界水準の「ナショナルパーク」にすることを目標とし、いろいろな取り組みを計画的、集中的に実施すると発表したものです。今後は広範な関係者による協議会が発足するものと思えますので、観光客の興味や満足度を高めるための施策を広域連携により、実施したいと考えています。

問 私はじめ、子どもたちが小さい頃は、町の委託児童として旧十和田湖町の十和田湖小、中学校に通っていた。今は逆に十和田市側の子どもたちが、小坂小、中学校に通うことができなにか。

答 十和田市では、十和田湖小学校・中学校の併設や学校統合について検討中であり、6月中旬に両校合同で説明会を開催すると聞いています。町

問 そのうち北海道地域からは125校でした。

町は北海道道央、道南地区が教育旅行の重要な誘客先であることから、引き続き秋田県観光連盟とタイアップして小坂町の観光資源の情報発信に努めていきたいと考えています。

②教育旅行者について

町長 これからも積極的に誘致活動を実施する

問 今年は特に修学旅行生が少ないように感じるが、5月の連休後から6月中の北海道、関東方面からの教育旅行者の集客にどのように取り組むのか。

答 鹿角広域観光推進会議事務局のまとめによりまずと、平成27年の鹿角地域への教育旅行入込校は147校で、

③祭り関係について

町長 より魅力あることを情報発信したい

としては、地域の方々や保護者との話し合いが進められ相談があった場合には、十和田市教育委員会と協議しながら検討したいと考えています。



国のモデル事業地に選定された十和田湖

問 現在、十和田湖のお祭りは「十和田湖湖水祭り」「十和田湖冬物語」があるが、外国人観光客が多く訪れる「冬物語」は特に予算が逼迫している状況である。原因としては青森県側の予算削減によるものである。町からはご理解いただき従来どおりの予算をいただいているが、「冬物

語」を継続するためにも青森県側に働きかけてほしい。

答 町は「十和田湖冬物語」に230万8千円を補助しており、祭り期間中のシャトルバスの運行にも20万円を補助しております。祭りがこれからも継続していけるよう協議を重ねていきたいと思いま

2025年問題が当町に与える影響は

町長 健全な社会保障財政の運営に影響



成田 直人議員



お元気倶楽部での一コマ

団塊の世代が後期高齢者（75歳）になる9年後、人口減少・少子高齢化はさらに進み、「住民の暮らしや経済、地域、自治体のあり方」にも大きな影響を及ぼすことになる想定されるが、これらに対し、どう向き合い、どのような視点、方向、方針で問題を解決し、地域の再生、展望を切り拓いていくのか町として問われることとなります。

とりわけ医療・介護・福祉サービスの需要が高まり、医療・介護などの負担と給付が大きく変わり健全な社会保障財政の運営に影響が出ると考えられることから次の質問を致します。

問 社会保障、医療、福祉について、どのような影響を及ぼすことになるのか、町長のご見解と対処すべき将来構想をお示しいただきたい。

答 2025年頃には少子高齢化もさらに進み、15歳〜64歳の生産年齢人口も大きく減少するため、医療・介護などの社会保障の負担と給付が大きく変わり、健全な社会保障財政の運営に影響が出ると見られます。

町は、国・県の方針や町の基本計画に沿った内容で政策を進めており、町で策定して

いる子ども・子育て計画、高齢者保健計画や介護計画などに反映させています。

情勢の変化が厳しい昨今、計画の見直しを定期的に行い、時代に即した内容としていくこととしています。

問 人口減少対策について、将来ビジョンをお示しいただきたい。

答 町では、国の地方創生戦略の方針に沿って、「小坂町まち・しごと創生総合戦略」を今年3月に策定しました。

これは、人口減少に歯止めをかけるための施策を総合的

かつ計画的に実施するもので、平成27年度から平成31年度までの5カ年計画となっており、この戦略において、平成52年に人口3千6百人程度を維持することを目標とする3つのビジョンによる人口減少対策の基本的方向を示しています。

問 行財政運営への影響をどう捉え、どのような対応を図るのか。

答 人口減少が行政運営に与える影響は当町のみならず多くの自治体が抱える課題であり、県や市町村間の連携を図ることにより、より効率的・効果的な行政事務運営に果たる必要があると考えます。

問 定年を迎えた皆さんが、現役時代に培った経験をどう活かすのか、現在の町の取り組み状況と新たな今後の方策をお示しいただきたい。

答 秋田県の取り組みである「秋田県版生涯活躍のまち推進協議会」への参加や、先進地事例である高齢者活用促進セミナーの開催など、これらを参考にしながら、町でも今後の方針等について検討してまいりたいと存じます。

町として小型ロータリー除雪機を配備し、要望のある自治会に対する貸与を図るよう取り組みことは出来ないか。

答 小型ロータリー除雪機の貸し出しや購入補助は徐々に一般的な除雪支援メニューとなつていますが、町では自治会等関係団体と共に、時代に合った除雪手法を考える新たな組織を立ち上げることも考えていますので、この中で有効な手段として認知され各自治会からの需要があれば、こういった制度の立ち上げも可能であると思っております。



頭の痛い厳寒の降雪期

バス停に待合所建屋と椅子の設置

町長 待合所の整備を進めて行く意向



本田 佳子議員



待合所の設置が待たれるバス停

問 バスを待つ間、体力のない高齢者、通院されている方にとって、とてもつらいものがあり、日よけや椅子がほしいとの話を伺っている。待合所建屋として残っている場所もあるが老朽化し、撤去されてしまった場所もあり、不便に感じている。利用頻度の多いバス停や、病院近くのバス停などに町として、建屋・椅子等を設置することは可能か。

答 現在、バス停留所の待合所の整備を検討しています。乗降客数、維持管理費等を検討したうえで整備を進めてまいります。そのほかのバス停についても、必要と認められた場合は逐次、整備を進めてまいります。

再生可能エネルギーの活用で町に潤いを

町長 再生可能エネルギーの活用で町に潤いを

問 小水力を利用しての再生可能エネルギーが可能と伺っていたが、その後の進捗状況はどうか。

答 現在、検討されている小水力を利用しての再生可能エネルギーは、県の事業で砂子沢ダムの放流水を利用した、小水力発電施設の設置があります。本年度は基本と実施計画を予定しており、早期の着

手を目指しているところでありましたが、現在、東北電力などの関係機関と事業調整中であることやダム湖岸の崩壊現場からの土砂撤去事業との関係から、正確な着工時期の明示はできません。



空き家の管理、利活用で住みよい町に

町長 県と連携を取りながら進めてまいりたい

問 空き家対策の取り組みはどのような状況まで進んでいるか。

答 利活用可能な空き家を、新たな居住者に提供する「空き家情報バンク制度」を実施し、これまで8件登録のうち5件が成立しています。また空き家等の移住・定住については、リフォーム費用の助成制度を設けています。

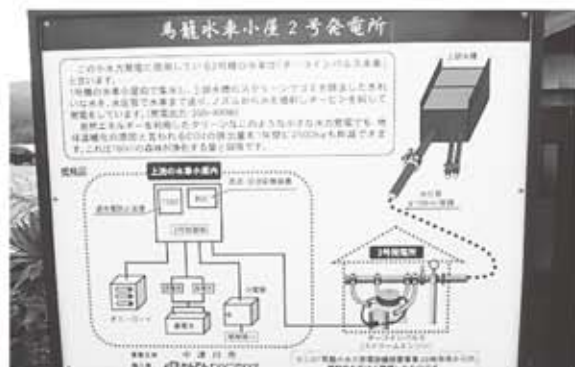
問 空き家相談士など専門の資格を持った方がいると、問

題解決が早いと思うが、町では資格を持った方がいるか。

答 空き家相談士の相談、設置等はしていません。空き家の実態調査を企画財政班のほうで行っており、空き家の実態調査を、周辺の方にお伺いしながら確認しているところです。



空き家利用の対策を



急がれる再生可能エネルギー施設

行政視察で来町

行政視察で来町された議会は、8月24日岐阜県中津川市議会、9月27日青森県外ヶ浜町議会、10月13日千葉県館山市議会の皆様でした。

特に青森県外ヶ浜町議会は、平成25年8月にも議会運営委員会の皆様が来町されておりました。今回は、広報対策特別委員会の皆様が来町され、小坂町の議会広報対策特別委員会の委員と親しく懇談しました。



中津川市議会



外ヶ浜町議会



館山市議会

青森県十和田市議会と初の懇談会 十和田湖の活性化に向け意見交換

去る10月3日、十和田湖畔休屋にある「十和田ビジターセンター」で、初めてとなる十和田市議会との懇談会を開催しました。

開催のきっかけは、6月17日に行われた「ひめまます稚魚放流式」で、両議長が会ったときに当町議会の日時議長から話を持ちかけ、十和田市議会の工藤議長が快く引き受けた事によるものであります。

出席者は、当町議会が全員の12人、十和田市議会が14人の出席でした。

お互いの自己紹介の後、両市町議会事務局から、平成20年12月の十和田湖境界画定に伴い、増額となった地方交付税の使い道についての説明を行った後、フリートーク形式での情報交換を行いました。

町議会議員からは、「休屋地区にある使われていないホテルなどが、十和田湖の景観を損ねている。」「十和田湖

の温泉もこのままホテルが減少すれば、維持管理が困難になってくる。」との意見が出ました。

市議会議員からは、「定例議会では必ず一人は、十和田湖の観光・振興について一般質問がなされる。」との発言がありました。お互いに国内有数の景勝地である「十和田湖」の再生、復活には懸命に取り組まなければならぬことについては、同一の認識でした。

また、両県境となっている神田川については、土砂が堆積し、ゴミも散見されることから、何らかの対応が早急に必要なのではないかと共通意見となりました。しかし、国立公園の中でも最も厳しい規制が設けられていることが、逆にネックとなっているとの意見もありました。地元で暮らす方々はもちろんですが、観光客にも迷惑をかけることに

なれば、イメージダウンに繋がるため、継続的に協議を重ね国、県などに要望することを確認しました。

近年頻発している、熊による農作物への被害や、人が襲われることについて、十和田湖でも目撃情報などもあり、熊対策も重要な施策ではないかとの意見も出されました。

時間の関係上、現地視察までは出来ませんでした。十和田湖の観光振興について、議会が果たせる役割を探り、今後も情報共有をすることを確認して、終了しました。



初めての協議会では活発な意見交換が行われました

議員と語る会 開催のご案内

語る会の内容は、年4回毎戸配布されている「議会だより」の説明などは、できるだけ簡略にして、語り合いを重視します。

文字どおり、町民の皆さんと、ざっくばらんに、「語り合う時間」をつくりたいと考えています。

まちづくりについて、老若男女、多くの皆さんと語り合いたいと思いますので、お気軽にご参加くださるようご案内いたします。

なお、今回も「語る会」において、テ-

マにしたい内容や、語り合いたい項目などで、事前にお聞かせ願えるものがありましたら、自治会長や各地区自治連協会長の方々を通じて、議会事務局(☎0186-29-3914)へお知らせくだされば幸いです。よろしくお願いいたします。

また、個々の自治会や団体などとの「語る会」にも、可能な限り議員が出向きますので、お気軽に議会事務局までご連絡をください。特に、若い人たちとの語り合いも望んでいます…。

開催地区	日 時	会 場	担当委員会
七 滝 地 区	11月30日(水)午後6時～	ほ っ と り あ	総務福祉常任委員会
十和田湖地区	11月30日(水)午後6時～	休平自治会館	産業教育常任委員会
上 向 地 区	12月 1 日(木)午後6時～	鳥越自治会館	総務福祉常任委員会
川 上 地 区	12月 1 日(木)午後6時～	川上公民館	産業教育常任委員会
中 央 地 区	12月 2 日(金)午後6時～	セ パ ー ム	議 員 全 員

編集後記

台風10号により小坂町では、緊急告知ラジオが無償貸与されてから、初めての避難勧告が発令され、セパームに自主非難した方もいらっしゃいました。倒木などで道を塞がれ、一時通行止めになり十和田湖地区では孤立した地域もあったと伺いましたが、大事に至らず、胸をなでおろしたところです。

今や、いつどこで災害が起こってもおかしくない時代です。そのような中、議長の働きかけで、10月3日に小坂町議会と十和田市議会との懇談会を実現することができました。災害防止、地域活性化のための観光施策、その他にも自由な意見を出し合い、お互いに問題や情報を交換しながら、解決に向け相互理解することができました。

町を元気にするために私たち議員も頑張っておりますが、町民の皆様方のお力が必要です。ぜひ、皆様方のご意見をお寄せください。

(本田)